慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	第十九世紀に於ける独逸経済発達の一斑
Sub Title	
Author	高島, 佐一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.7 (1915. 7) ,p.790(96)- 800(106)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150701-0096

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

第十九世紀に於ける獨逸經濟發達の一斑

高島佐一郎

目次

（一）獨逸經濟發達の概觀
（二）農收制度の撤廢
（三）仲間組合制度の瓦解
（四）關稅同盟成立と工業勃興
（五）信用銀行勃興と株式會社主義
（六）大工業化と資本輸出主義
（七）交通業の發達
（八）同世紀中葉に於ける市況隆替
（九）銀行と株式取引所との接近
（十）銀行及工業の相互的集中

Leopold Joseph, The Evolution of German Banking, Chap. I, The Economic Development of Germany, since 1800　參照

"Natura non facit saltum", see Marshall, Principles of Economics, p. 249.

英國現代の大思想家アルフレッド、マーシャル、經濟的發達を促進す可き人力の限界を論じて、例を人種改造論に假り、經濟界に於ても所謂「自然は飛躍せず」Natura non facit saltum. てふ自然界の法則の猶效力を有するを説き、發達は遲々たるを性格とすと訓ゆ接ずるに獨逸經濟、獨逸民族の發達膨脹實に驚嘆に堪ゆるものありと雖も、其發展の極めて漸層的なるに想到すれば吾人を啓發するもの尠しとせざるなり。本篇は瑞西銀行組合の支配人レオポルド、ヨゼフの一昨夏、倫敦經濟政治學學校に聽せられて倫敦大學生の爲に講演せる一節にして、獨逸を解するの一資料たる可きを思ひ、爰に飜譯を試みたるものとす。但し同書は英國エコノミック、ジャーナル誌上、（昨年三月號と記憶す）スポールヂング教授の批評せしが如く、寔に獨逸金融を紹介するの好著述たれども、性質上粗笨の憾なきにあらず、是れ吾人が無遠慮に評註を加へ以て幾分の肉を加へんと欲する所以なり。

其一

今年一九一三年獨逸民族は麥酒の滿を引いて第十九世紀の初葉其祖先が大ナポレオンの羈絆を罷脫したる百年祭を祝ふ。今にして往事を追懷すれば、假借せざる壓迫耐ゆ可らざる凌辱を加へ獨逸民族の骨髓までも吸取りて之を無慚孤挨の無價値物と爲し了らんとは、慨に大奈翁の胸中を來往せる對日耳曼諸邦政策たりき。時の普魯西政府は漂漂脆弱を極めたるものなりしが斯の危急存亡の秋に當りてコルシカの大皇帝の農奴生活より其國人を解放救濟せんが爲めに、勇氣智識殉公愛國の志士英雄指導者は慨然として立ち、敢て肇を洗ひて民族の獨立獨逸民族の使命國家自由の光榮を鼓吹し、或は戰塵空濛の間に槊を橫へ、彩管に戞國の詩歌を草して軍氣を激勵したるや、輒ち當年の國士シュタイン、バルデンベルヒ、アルント、キョルネル、シャルンホルスト、グナイゼナウ等の英名は今に聯想せられて獨逸人に最も敬慕せらるゝ名辭とはなれり

史家屢々獨逸の政治的復活の時期を劃し、第十九世紀間に遂行せられたる同國の經濟的大發達の出發點に一致すと爲すは自然的なる時代分けにして正鵠を得たるものなる可し。萬象維新せる獨逸の經濟生活及組織の礎石は必ずや奈翁の決行せる中世的日耳曼諸國の根絕的破壞力を以て据えられたるものたらざるを得ず。如何となれば當年猶同國に殘存し居たりし中世的經濟組織は慨に當然發展す可き其經濟上の諸勢力の化育發達を妨碍し、延いて外敵に對する國民的抵抗力を薄弱ならしめたる素因たりしこと明白にして、此停滯腐敗せる經濟狀態を顚覆し之に革新の刺戟と機會とを投じたるは當に奈翁の鐵蹄に歸せざる可らざればなり。高名なる近世の一經濟學者這般の消息を喝破し「獨逸帝國の政治竝に經濟上の統一團結に貢獻したるの偉大なるはビスマルクを除く外何人と雖もナポレオンに如くものあらじ」と云へるは、一見奇矯の文字を弄したる如くなるも正に一卓見たるを失はず。蓋し奈翁は沈滯せる中世的日耳曼諸邦を破

壞し。比公は濺測たる近世的獨逸帝國を建設せる偉人たればなり。

註、久しく兵燹の憂なく、當時早くも近世的經濟的生活に入れる英國に對してすら、奈翁戰爭の與へたる經濟的影響には消極的なるものゝ裡に積極的なるもの幷び有したるは與味なしとせず。獨逸人等が倫敦スチール、セード居留地を退去せる後、英國の冒險商人漢堡に移住してイングリッシ、コート居留地を營むや、英人は其織物を齎して獨逸産の穀物に易へ兩國貿易之より大に見る可きものあらんとしたる矢先、奈翁戰亂次いで大陸封鎖となり、英人の築き上げたる大陸的地步は全く顚覆せられたり。然るに其前後既に人口の激增ありて食料原品の騰貴を誘ひ第十九世紀の初葉其絶頂に達し、自ら農業を奬勵せざる可らざるに當り、既に大陸諸國には保護關稅政策發芽し近く奈翁の戰亂ありて大陸貿易は全く杜絶の非運に會したるを以て、土地生産力を增大せしむる刺戟益〻加はり、曩にアーサー、ヤングの大農制を中心とせる興農的主張の俚耳に入れるあり。今又其激增せる人口を支へ英國をして獨り敢然奈翁の世界的支配に抗爭し得せしむるは國民の愛國的義務也と高調せらるゝあり。茲に相俟て暫くは過度の工業化を抑制し、英國農業大の隆興を見るに至れり。アッシレー敎授の近著「英國の經濟組織」之を詳叙して餘蘊なし（W. J. Ashley, The Economic Organization of England, Lectures, IV, VI）思ふに前者が英國の經濟上破壞的影響を與へたるものなること論なしと雖、後者に依りて得たる建設的利益は彼を償ひて餘りあり。殊に今次の歐洲大戰に臨みて此感更に深甚なるものあるを覺ゆ、夫れ現代は資本主義の時代經濟的合理主義の世なり。ゾンバルト敎授が其特徵を捉へて「資本主義前の時代に於て全靜の原則 Prinzip der Ruhe は經濟生活を支配する箴言なりしが、資本主義の時代に於ける其導星は轉ち革まりて全動の原則 Bewegungsprinzip となれり」と言ひけん如く、萬事現金主義 cash nexus が經濟の方向を麾く結果、世は靜不動 quieta non movre より動不靜 movre non quieta となれり。（Werner Sombart, Die Guden u. das Wirtschaftsleben, S. 186 ff.）此近世資本主義の魔力は、一方アッシレー敎授の謂ゆる一九〇一年に於ける英國の土地は一八〇一年に於ける人口の約四倍の人類を支へ得る」に至らしめたると同時に、他方ダーヂ氏が嘆せるが如く「英國農業從事者は最近三十年間に約三割を減ずる」に至らしめたりと雖も、（Ashley, op. cit., p. 173. G. Darge, Land Problems and Land Banks, London Bankers' Magazine, September, 1914, p. 341.）他國に數步を進めたる英國當年の商工化を以てして、猶兎も角も

第十九世紀末葉まで過度の工業化を食止め、農民が其故山の茅屋を捨てゝ大都會の裏街の陣割長屋に趨るを防ぎ、英國民族に幾分農民的元氣を維持せしめ得たるは、遙に第十八世紀の末葉より第十九世紀の初頭に亘れる大陸諸國の保護關稅政策及奈翁の大陸封鎖と響應し、因果關係を有するものなりと信ず。卓越せる希臘の歷史家ジョーヂ、フィンレー曾て曰はずや「國民の富は大に其商業に賴る可しと雖も、國民の元氣に至ては重もに其農業より來る」と。資本主義と商工業化とは國際自由交通を豫定すれば、國際競爭上眞に已を得ざる經濟的合理主義の歸趨なりと雖、極端なる商工業化は少くも方今の世に於て深甚の計を加ふることを必要とす可し。

果して然らば第十八世紀の第一年一八〇〇年に於ける獨逸國勢の一斑は如何。獨逸帝國の人口は今や六千八百萬に達せりと雖も、當時は二

千四百萬を超ゆること幾何ならず。伯林の人口は今日三百七十萬を超ゆれども、當年は十五萬三千百二十一人の計數を示したるに過ぎず。普魯西の戸數は百四十五萬四千四百七十五を算へたりしも、其大部分は藁葺の假小屋に係り堅牢なる家屋は僅に其一割七分に過ぎざりき。當時普魯西に於ける都會數は凡て一千十六、中に就き十萬以上の人口を有せるものは伯林の一都會五萬以上の人口を有せるものは當時普國に屬したるソルソウ竝にブレスラウ及ケーニヒスベルヒの三都會、一萬以上を乘せたるものはブランデンブルヒ、ポツダム、ボーゼン、フランクフオルト、アン、マイン等の十四、三千乃至五千のもの六十五、二千乃至三千のもの五百二、其他は一千人以下の町村に屬し、五百以下のもの百十七、三百以下のもの三十六、僅々五十九人の住民を有せるもの一なりき。而て都市なる觀念し凡ての點に於て今日の意味とは異り、概ね單なる住民の集團に過ぎずして市街街燈道路運河等の諸般の設備凡て原始的狀態を脫せず。公道は少數且不完全に、旅行は困難緩慢を極めたり。かの歷史上人口に噚炙せる驛傳馬車は州境稅關毎に長く且屢々停車して遲緩氣長にも徐行したるものから、今日二三時間にて到達し得可き伯林ライプチヒ間は一日半の長程に當り、四時半の瀛車旅程たる伯林ブレスラウ間には四日間を要し、フランクフォルトよりスツト、ガルトに到る間は十三箇所の稅關に十五時間を空費して四十時間を要し、ドレスデン、マグデブルヒ間約百哩の旅程間には實に十六の稅關を通過せざる可らざりき。

一八〇三年に至るまでの獨逸には三百の王公雜然として國內に割據したることを看過す可らず。此年に至り同國は初めて三十八の王國に集中統一せらるゝことゝはなりしも、猶三十八の州境稅關存在したるを以て各州は交通に關し相互恰も外國たるの觀あり、其結果國內通商すら無慚にも妨碍せられたるは言を俟たずとす。かの干涉屆せざるの闘志を抱いて獨逸關稅と鐵道制度との基を拓きたると同時に攻擊倦まず遂に國民經濟學派を創辦したるフリードリヒ、リストは、是等の州間稅關が國民經濟の發達を妨ぐる害毒に歸するに、恰も人體機關の各部分たる四肢五體の根元が緊縛せられ血液の循環爲めに遮斷せられたると同一の效果ある可きを以てし、極めて含蓄ある論難を試みたりしが、事實上當時漢堡、埃地利間又は伯林、瑞西間に亘りて通商を試みんには、實に十箇の關稅上の外國を橫斷せざる可らざりしが故に、十種の異なれる稅關規則を嚙んじ十度通過稅を支拂ふの煩を忍はざる可らざりき。加之貨幣銀行券及度量衡の制度區々多岐を極め、其商業取引を錯雜にし妨碍したりしこと擧げて數ふ可らず。度量衡の制度は姑く措き當年に於ける通貨狀態の大概を叙すれば、貨幣鑄造制度は實に數種の多きに上り、當に各州間の貨幣の比價が錯雜せりしに止まらず、プレーメンの一自由市が獨り金貨を本位とせる外他の諸州及自由市は銀貨を本位としたりしかば、商取引が阻碍せられたりしこと其幾何なるを知らざりき。曾くして取引の相應に發達するや。銀貨は流通上不便なりとして自づから其流通範圍を狹められたりしも、之に代りて通貨組織の要部を占めたるものは各州の政府紙幣及多數の發行銀行の銀行券なりしかば、其流通の圓滑ならざりしこと蓋し自明の所たり。

獨逸の近世經濟史は通常三時期に區劃せらる。即ち一八〇六年より一八三四年獨逸關稅同盟の成立に至るまでを第一期とし、一八三四年より一八七一年普佛戰爭を閱して獨逸帝國の建設に至るまでを第二期に配し、一八七一年以降現今に至るまでを第三期となす。思ふに一國の經濟的發達が其邦國の廣袤及狀態、地理上の位地、氣候地質、自然的資源、政治上の指導者、法律

諸制度殊に私有財產及契約自由の尊重、人口、國民性及體質、敎育訓鍊等凡百の要素の合成力に影響せられ且決定せらるゝことは贅說するを須ゐず。今少しく獨逸の經濟的要素を考察せん。

今日獨逸の面積は五十四萬八百五十七平方基米即ち二十一萬五千五百平方哩に亘り、其人口は一八七一年の四千百五十八萬七百九十二人、一八一六年の二千四百八十三萬三千人に比較して無比の增加を示し、一九一〇年に於ける最近の人口統計は當に六千四百九十二萬五千九百九十三人の巨數を示せり。されば一平方基米宛の人口は一八七一年の六十六人、一八四〇年の六十人に對して、今や百二十人を容れつゝあるを見る。而て人口に就ては歐洲强國間に第二位を占め其面積は第三位にあり。若し斯の如き膨脹せる人口が當に同一の領域內に充分の生活資料を獲得せるのみならず、衣食住及生活上の娛樂慰藉に關しても亦大に生活狀態を改善し得たりとせばそは必ずや先づ其邦國の貧弱ならざることを實證し、更に其民族が物質的に將た精神的に健全强固勤勉聰明の美德を備へ且精力溢れ企業心の盛なるを明徵するものにあらずや。而て獨逸には既に其條件の充つるものあり、然らば此前提も承認せられたりと謂ひ得可きか。而も之を佛蘭西、露西亞、北米合衆國、南米諸邦等に比較すれば、自然の恩寵は決して獨逸に豐かなりと謂ふことを得ず。獨逸の澌粉其他の食料品被服材料等は以て國內需要をすら充たすに足らずして、原料品の輸入は年々其繁きを加ふ。然れど同國は縱ひ主として大陸的なりと雖も、恰も歐羅巴の心臟の地位を占めて對外物資の呑吐に至便なるものあり。通商上好箇の地位に據れるものたること否定し得可らずとす。

氣候は帝國內地方に依り自づから異なれりと雖も、概して健康に適すと謂ひ得。晴れ渡れる日光を仰ぎ得ること多からず却て雨繁く、空頻りに曇り霧靄々深し、形容せば獨逸人は當倫敦人にも似て灰色の大氣に包まれ灰色の空氣中に生活すと謂ひ得可けん。然れど此種の氣候は慣に國民の經濟的活動力に重要なる刺戟的勢力を及ぼすものゝ如し。更に溫暖快適なる氣候の下には要せらるゝことなき各般の財に對する需要を喚起し、其の結果是等の物資を得んが爲に强く勞働する必要に迫まるゝことに疑ふ可らず。ゾンバルト敎授謂へるあり、「纖かのボロ著物を纏ひ栗やバナヽを常食として生存を維持し得らるゝナポリの賤民は、滋養豐かなる食餌暖き衣服堅牢なる居住を生存の絕對要件となすの北方國人に比し爾かく生存競爭の壓迫を感ずることなし」と。乍併寧ろ程好き氣候が年中間斷なき經濟的活動を維持せしむるに反し、極寒極暑の氣候の堅實不斷の勞働を妨害することは自明の數に屬す。而て獨逸の氣候は縱し寒くとも其國人をして南國の賤民たらしめず、亦極北の矮人たらしめざるものなることを斷言し得ん。

註、ゾンバルト敎授又曰く「近世的經濟生活の發達に於ける最も重要なる事實の一は經濟的活動の中心が南歐の諸國民より西歐及北歐の諸民族に推移せること。換言すれば、伊太利人西班牙人葡萄牙人の文明衰微して和蘭人佛蘭西人英吉利人獨逸人の文明隆興せる現象なりとす。而て獨逸一國に就て言ふも南獨逸人の文明衰へて北獨逸人の文華興れることかの國際的文明の隆替と揆を一にするものあり」と。是れ必ずしも氣候のみの所由にあらざること論なしと雖も、少くとも氣候の寒暖は文明發達を助長若くは妨碍する一因となすを得可し。鴻儒マーシャル敎授は經濟發達に及ぼす氣候の影響に關し謂て曰く「冷凉爽快なる淸風は實に食物と等しく活潑なる生活の必需品たり、豐饒の食料品を實らすも其氣候

が元氣を破壞するものある如き土地は、其熟らす食物の縱し少くとも元氣を鼓舞せしむる氣候を與ふる土地に比し、寧ろ人生を至幸ならしむる原料生產力が劣弱なるものと言はざる可らず」と。蓋し至言たるを失はず。

（Marshall, Principles of Economics, pp. 164, 5.）

一國經濟の發達に等しく深甚の關係を繫ぐ爾餘の諸勢力及條件を細論する餘裕を有せざる吾人は速に一國の經濟政策の一端を叩かんと欲す。思ふに第十八世紀に於ける有名なる一大藏大臣が上奏して「予に善き政治を與へよ、然らば予は陛下に善き財政を奉り得可し」と。謂へるは少許の制限の下に今猶一面の眞理を有す。善良なる政治は善良なる財政と善良なる經濟とを產む可し。然れど政治上の動搖及危機の重く人心を苦壓せる時代に於てすら、經濟的發達は謂ゆる連續の法則に乘じて何等の妨碍を蒙ることなく駸々として、助長せらるゝことなしとせず。殊に近世にありて然りとす。今猶吾人の記憶に新なるモロッコ事件、バルカン戰爭等が與へたる諸文明國の政治竝に財政上の動搖危機が之と關係せる諸國民經濟に及ぼせる影響の微弱にして復た言ふに足らざるものたりしことは其適例たらさらんや。唯乍併一國の政府の營爲する積極的又は消極的經濟政策が直接若くは間接に或程度まで一國の經濟的發達の方向及程度を決定するの威力あるは之を認めざることを得ず。而て新進國若くは官僚的國家に於て殊に顯著なるものわらん。

獨逸國は比較的後進の邦國にして、獨逸民族は由來官僚的傾向を有す。奈翁の侵略以前に於ける日耳曼諸國政府は人民の經濟的活動の上に廣汎にして細密なる支配權を行使したりしが、一八〇七年フリードリヒ、ウィルヘルムの詔勅の煥發せらるゝや。茲に因襲的なる經濟政策上に根本的革命を招來したりき。詔勅の一節に曰ふ「天佑を保全せる普魯西國王フリードリヒ、ウィルヘルム茲に平和克復の成を告ぐるに膺り我忠良なる臣民に宣明するに、爾今朕の意圖は專ら戰局中久しく慘害を蒙れる有衆の財產及繁榮を恢復隆昌ならしむる政策に傾倒せらる可きことを以てす。斯の窮厄慘害の狀況を計量すれば、朕が支配し得可き手段及實力は個々の臣民に助力を致すに於て到底不充分なるを免れずと思料すると同時に、朕の爲し能ふ凡ては唯健全なる國家經濟の原則と公正とに倚遵し、從來各個人が各々其材能に應じて當然享受し得たりしなる可き財產利益を獲得することを妨げたる一切の法制及政策上の障碍を除去し、以て經濟的自由の主義を確立するに存す可し」と。寔に近世的自由思想を明白に承認したる此重要なる方策は、將來に亘り經濟上の發議權及活動力の全部を擧げて國民に委ね去らんとする政府の意思方針を表彰したるものとす。然れども絕對的なる經濟的自由又は無條件なる自由放任は、近世の國民經濟政策の必ずしも協贊し得る所にあらざるが故に、爾後此經濟上の自由主義は適當なる法令に依りて干涉を加へられたると共に、一八七一年帝國完成以後に於ては國家社會主義の學說漸く人心に入り、國家は政府監督の下に獨逸帝國を設立し、鐵道線の幹部を國有に移し、採炭鑛業等の財產を取得する等、各般の方面に亘りて經濟發達の進路を支配し指導し、以て私經濟活動と相幷びて國民經濟の發達上幾多重要なる役割を演ずるに至れり。

嘆賞す可き獨逸の敎育竝に軍事上の制度組織は慥に同國の經濟的利益を助長するに極めて價値ある貢獻を爲したるものゝ一條件たり。獨逸人は凡そ思索及活動に訓鍊せざるなく、獨逸人の節制及紀律とし謂へば廣く世人の承認を容み得ざるの域に至れり。紀律とは服從すると等しく命令する力を包含し、又自己を從屬せしむる

と等しく自ら組織する力を含蓄す。換言すれば自らは組織の一部たると同時に其全部たることを認識するに依りて紀律靴ち完きなり。而て獨逸人の矜持する所も亦其民族の特性が此一對の資格條件を具有するに存し、其是れわるが爲に獨逸帝國は最も完全に組織せられたる軍隊と最高の效果を擧ぐる良敎師とを產出し得たるなり。サドアの戰勝を指して一大學敎授曾て言へるわり「獨逸の小學校敎師が戰に勝てるなり」と。夫れ之を謂へるものか。一方に於て協同を要し他方に於て分化を必要とし、協同及分化が渾然融合する所に最高の效程を有する大企業の組織及經營の完成せらるゝ近世經濟組織にわりて、如上の特性が緊急缺く可らざる絕對的要件を成すものたること蓋し自明の所なる可し。

——○○（以下次號）○○——

簡易保險法案に對する生命保險協會の批評を讀みて

在倫敦　三邊金藏

先頃接手せる昨年末の時事新報の報ずる處に依れば、豫而噂ありし我政府の簡易保險法も、愈草案の脫稿を見るに到りたるが、政府は公式的に此を議會に提出するに先ち、世論の批判を聽くの趣旨を以て、生命保險協會、社會政策學會等の諸團體に送附し、其意見を徵せるに社會政策學會は贊否兩論に分れ、生命保險業者は一體として反對意見を發表せりとのことなり。

本邦幾多の知名學者より成る社會政策學會の議論は、若し是れを聽くを得ば、贊否兩說共に吾人の蒙を啓きて餘ある可きや必せりと雖も、余輩の接手せる新聞紙には、其議論の大要すらも紹介しあらざるが故に、未だ之れを明にするを得ず、余輩の遺憾とする處なるが、之に反して、生命保險業者の反對意見は保險協會の答申書として報せられたる所に依りて、幸ひに之を明にするを得るが如し。余輩は斯る問題に關しては、所謂一個の門外漢たるに過ぎざるが故に自ら議論の壇上に進みて、是非の議論をなし得るが如き者にあらざれども、併し一般に社會政策と稱せらるゝものに對しては、平素多少の興味を有し、能ふ限り研究の用意を怠らざらんと欲する者なれば、試みに、新聞紙の報ずる處に基きて、自らの所思を述べ以て識者の示敎を仰がんと欲す。

一

生命保險協會は、簡易保險の官營に反對する其理由の一として、簡易保險は社會政策の保險として實行す可きものにあらずと主張せられたり。生命保險協會が、昨春發表せられたりと云ふ、其意見書は余の未だ見ざる所なれば、如何なる論據に基きて斯く說かるゝか、其詳細を知るに由なしと雖、案ずるに「僅かに死亡時に於てのみ埋葬費に充つ可き資金を給付する所の小額保險の如きは能く下級人民の恒心を養成し彼等を善導するの手段たらざるが故に、泰西諸國に於ては未だ是を以て社會政策の保險として實行するものあるを聞かず」云々と云ふが其要點なるが如し。

簡易保險法概要として、新聞紙上に紹介せられたる處を通讀して、政府が最高保險金額を二百五十圓と云ふ、小額に限りたる事實を見るときは、政府の意は簡易保險なる名目の下に、埋葬費保險を行はんとするに過ぎずと解するも、差支なきが如くなれば、此見地より右生命保險協會の非難を評するときは、眞に正鵠を得たるやに思はれざるにもあらず。然れども、飜つて、一方政府當局者が、最高金額を二百五十圓に限定せるは、全く民間生命保險業壓迫の弊を避け